

October 4, 2021

**【前日の為替概況】米 10 年債利回り 1.45%でドル弱含み、対円 110.91 円、対ユーロ 1.1607 ドル**

1日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は111.05円と前営業日NY終値(111.29円)と比べて24銭程度のドル安水準。ダウ平均が一時640ドル超上昇するなど、米国株が底堅く推移すると、リスクセンチメントに敏感なオセアニア通貨などを中心にドル売りが先行し110.91円と日通し安値を付けた。9月米ISM製造業景気指数や9月米消費者態度指数(ミシガン大調べ)確報値が予想を上回ったことが分かると111.14円付近まで持ち直す場面もあったが、米長期金利の指標である米10年債利回りが1.45%台まで低下したこともあり、戻りは鈍かった。格付け会社フィッチ・レーティングスは「米債務上限が引き上げ、もしくは停止されなければ米国債は現在の最上位信用格付け『AAA』を失う可能性がある」と警告している。ユーロドルは6営業日ぶりに反発。終値は1.1596ドルと前営業日NY終値(1.1580ドル)と比べて0.0016ドル程度のユーロ高水準。欧州時間発表の9月ユーロ圏HICP速報値が前年比で予想を上回ったことからユーロ買い・ドル売りが進行。時間外のダウ先物の持ち直しに伴うリスク・オンのドル売りも出て、一時1.1607ドルと日通し高値を付けた。ただ、ユーロクロスの下落につれた売りが出ると1.15ドル台後半まで押し戻された。ユーロ豪ドルは1.5941豪ドル、ユーロNZドルは1.6686NZドル、ユーロカナダドルは1.4646カナダドル、ユーロポンドは0.8544ポンドまで値を下げた。ユーロ円は小幅ながら3日続落。終値は128.79円と前営業日NY終値(128.88円)と比べて9銭程度のユーロ安水準。ユーロ圏のインフレ指標を受けて129.04円付近まで値を上げた後、128.55円まで反落した。

代表的な暗号資産(仮想通貨)であるビットコインは急伸。対ドルでは4万8183ドル台まで上昇し、対円では534万円台まで値を上げた。パウエルFRB議長が前日の米下院金融サービス委員会での証言で「仮想通貨を全面的に禁止するつもりはない」と発言し、米国の規制緩和を示唆するものと受け止められた。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、米国債務上限と中国恒大集団への警戒感で伸び悩む展開か**

本日の東京外国為替市場のドル円は、先週末のダウ平均が上昇していることはリスク選好の円売り要因だが、米10年債利回りが1.46%まで低下しており、連邦債務上限や中国恒大集団への警戒感などで上値が重い展開が予想される。

ユーロ圏9月のインフレ率が13年ぶりの高水準を記録し、FRBがインフレ指標と注視している米8月個人消費支出(PCE)価格指数も前年比+4.3%となり、7月の前年比+4.2%から上昇していたことで、ラガルドECB総裁やパウエルFRB議長の見解「インフレ高進は一時的」が揺らぎ始めている。

米10年債利回りは、11月の米連邦公開市場委員会(FOMC)でテーパリング(資産購入の段階的縮小)が開始される可能性が高まり、原油価格が上昇したことで1.56%台まで上昇した後、1.46%台まで低下している。米10年債利回りの一目均衡表・転換線は1.43%だが、ここは住宅ローン担保証券(MBS)市場でのコンベクシティヘッジのトリガーポイントになっている。すなわち、9月22日のFOMC声明とパウエルFRB議長の会見を受けて、米10年債利回りはコンベクシティヘッジにより1.43%を上抜けて1.56%台まで上昇しており、ドル円も109円台から112円台まで上昇した。もし、トリガーポイントで一目・転換線の1.43%を下回った場合、10年債利回りは低下し、ドル円も109円台まで下落する可能性が高まることになる。さらに、9月のFOMCで2022年の利上げを予想していたタカ派の9名の内、カプラン米ダラス連銀総裁とローゼングレン米ボストン連銀総裁が倫理規定違反で辞任となり、クラリダFRB副議長も倫理規定違反が報じられていることで、9月の雇用統計が8月のようなネガティブサプライズだった場合、11月のFOMCでのテーパリング開始の可能性が低下することになる。連邦債務上限の引き上げ、あるいは2022年12月までの適用停止を巡る米上院の協議は難航することが警戒されており、イエレン米財務長官が警告したXデイである10月18日、TB利回りが示唆するXデイの10月28日に向けた駆け引きを見守ることになる。格付け会社フィッチ・レーティングスが「米債務上限が引き上げ、もしくは停止されなければ米国債は現在の最上位信用格付け『AAA』を失う可能性がある」と警告しており、2011年8月の米国債格下げショックの再現に要警戒となる。ジョージ・ソロス氏が「中国版リーマン」と警鐘を鳴らしている中国恒大集団のデフォルト(債務不履行)リスクに関しては、米ドル債の利払いが履行されず、30日間の猶予期間に入っていることで、Xデイは10月23日付近となる。また、本日償還のドル建て債には猶予期間が設けられていないことで、クロスデフォルトの可能性が警戒されている。

**【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間**

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 9月マネタリーベース
- 臨時国会召集、首相指名選挙、新首相選出、新内閣発足見通し

## &lt;海外&gt;

- 15:30 ◎ 9月スイス消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.2%）
- 15:30 ◇ 8月スイス小売売上高
- 16:00 ◎ 9月トルコCPI（予想：前月比1.35%／前年比19.70%）
- 16:30 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 21:00 ◎ ラムスデン英中銀（BOE）副総裁、講演
- 21:30 ◇ 8月カナダ住宅建設許可件数（予想：前月比3.4%）
- 23:00 ◎ 8月米製造業新規受注（予想：前月比1.0%）
- 23:00 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、パネルディスカッションに参加
- 石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟産油国による「OPEC プラス」閣僚級会合（テレビ会議）
- 中国（国慶節）、休場
- 豪州は3日から夏時間に移行済み

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

1日 08:57 日銀金融政策決定会合における主な意見(9月21-22日分)

「公衆衛生上の措置が継続する中、サービス分野を中心に内需は低迷を続けている。この間、ワクチン接種は一段と進捗したが、引き続き、感染症の帰趨と内需の回復ペースを注視する必要がある」

「消費者物価の前年比は、指数の基準改定によって下方修正されたものの、携帯電話通信料等の影響を除くベースでは、底堅く推移しており、先行きにかけても失速するリスクは低い」

「ワクチン接種が先行する国々では、経済が正常化し、ペントアップ需要が高まる中で、コロナ禍に対応するための政策を徐々に手仕舞う動きがみられているが、日本では、経済正常化以降のペントアップ需要の高まりを、2%の「物価安定の目標」の達成に繋げていくことが重要である」

「世界的に気候変動対応に向けた動きが本格化しつつあり、この時期に気候変動対応オペの仕組みを整えることは適切である」

1日 19:34 カシユカリ米ミネアポリス連銀総裁

「労働市場の回復までにはまだ時間がかかる」  
「そう遠くない時期にテーパリング(資産購入の段階的縮小)を開始するのは理に適う」

1日 19:45 ヴィラーグ・ハンガリー中銀副総裁

「金融引き締めは終わりから程遠い」  
「今後数カ月で15bpsの利上げを行う」

1日 20:27 リンドナーFDP党首

「緑の党との連立協議は良好だった」

1日 20:33 ベアボック緑の党党首

「自由民主党(FDP)との連立協議は順調だった」

2日 00:05 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁

「インフレ高進は重大なリスクを抱えている」  
「経済が改善し続ければ、米国は2023年に最大雇用とインフレ目標に達する可能性」  
「テーパリング開始は遅いより早い方が良い」

2日 02:23 メスター米クリーブランド連銀総裁

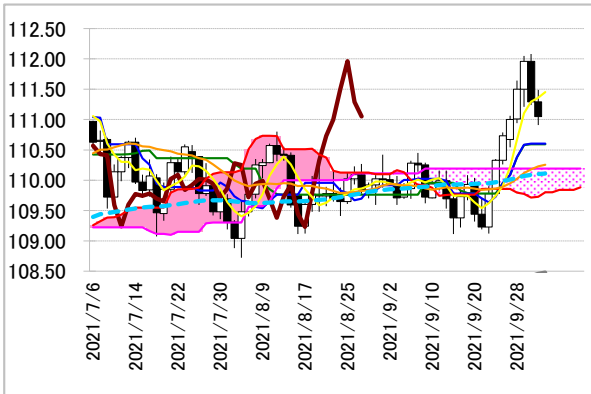
「来年から再来年にかけてインフレは2%を上回ると予想」  
「インフレリスクは上向き」  
「FRBは来年利上げに踏み切ると予想」  
「11月からのテーパリング開始を支持」

2日 02:55 ジョンソン英首相

「北アイルランド議定書は基本的には有効」  
「議定書の将来については、修正するか、または捨てるか」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

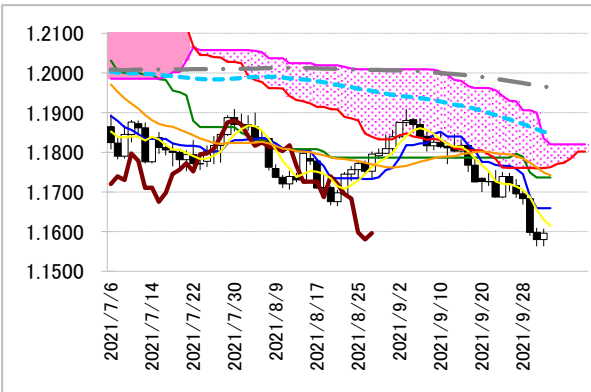


### <ドル円=9/30 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線と同値、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、高値圏での抱き線、2手連続陰線で反落していることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、9月30日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	112.40(2019/4/24 高値)
レジスタンス 1	112.08(9/30 高値)
前日終値	111.05
サポート 1	110.60(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	110.19(日足一目均衡表・雲の上限)

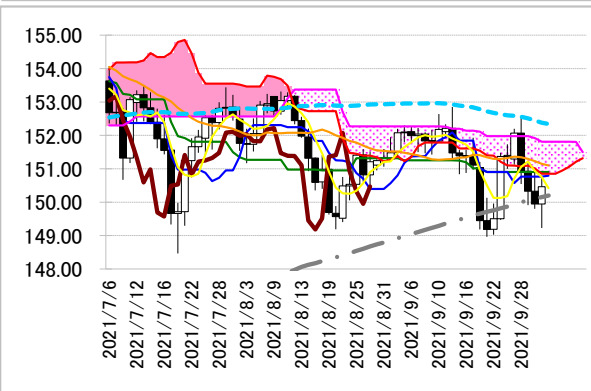


### <ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。5手連続陰線で下落した後、孕み線で反発したものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1659(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1596
サポート 1	1.1507(2020/7/22 安値)

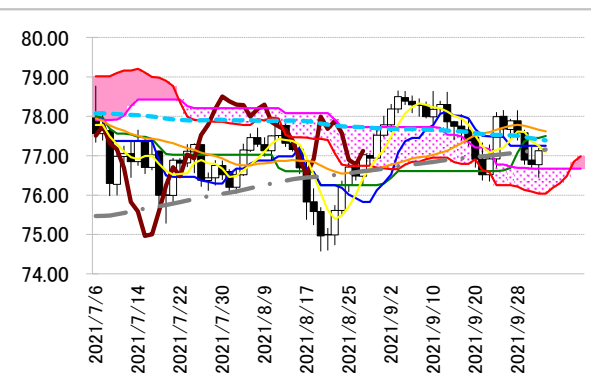


### <ポンド円=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。3手連続陰線で下落後、抱き線で反発したものの転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	150.91(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	150.47
サポート 1	149.23(10/1 安値)



### <NZドル円=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることから、買いシグナルが優勢な展開となっている。3手連続陰線で下落後、抱き線で反発したものの転換線を下回って引けていることから反落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	77.50(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	77.12
サポート 1	76.67(日足一目均衡表・雲の上限)

